



地域の人々が守り、育てた川に舞うホタルを
未来の子どもたちにも見せたい。

滋賀らしい豊かな水辺の暮らしを守りたい。
誰もがつながり、安心して生活できるまちのために
市民活動を応援したい。

未来ファンドおうみは
みなさまの地域への想いを未来へつなぎます。



歴史が育み、人と自然が作りあげた
滋賀の風景を伝えていきたい。



寄付、助成事業に関するご相談はお気軽に
淡海ネットワークセンターへお問い合わせください。

あなたの想いの一滴
おたがいさまがつながり、生きる



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

〒520-0801
滋賀県大津市におの浜1-1-20 (ピアザ淡海2F)
電話 : 077-524-8440 FAX : 077-524-8442
E-mail:office@ohmi-net.com
URL:http://www.ohmi-net.com



交通機関
JR大津駅から バス なぎさ公園線 ピアザ淡海前下車すぐ
湖岸経由 大津警察署前下車徒歩3分
JR膳所駅から徒歩15分 京阪電車 石場駅から徒歩5分
名神高速 大津ICから10分 地下駐車場 (有料) あり

開館時間 : 午前9時~午後5時 (月・祝 休館)

この印刷物は、古紙パルプを配合した再生紙と大豆油インキを使用しています。



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団



おたがいさまがつながり、生きる 未来ファンドおうみ 設立趣旨

滋賀県では、豊かな自然や風土に培われてきた歴史文化を受け継ぎながら、地域の人たちが自分たちのことは自分たちの手で、自分たちの責任においてまちづくりを行ってきました。また、この精神は経済的豊かさを地域に還元する「三方よし」の精神として、全国に広まってきました。

20世紀に入り経済的豊かさや効率を追求するあまり、環境と共生してきたびわ湖の「水文化」が醸し出していた暮らしの豊かさを忘れがちになっています。

今、自然を大切に、誰もが自分らしく暮らし、働き、子育てがしたくなる地域にしたい、諦めては何も始まらないと、みんなで知恵を出し合い、地域を少しでも良くしようと活動を続ける市民活動団体や地縁組織、地域の人々があります。地域の実情を最もよく知る市民が公益の一端を担い、地域の活力や魅力を創り出す市民の公益活動が今後ますます必要とされる時代になってきています。

淡海文化振興財団では、1997年の設立以来、地域の個性や魅力を高め、暮らしをより良くするための活動を自主的に取り組むNPO（民間非営利組織）・市民活動団体等を支援してきました。その一環として、おうみNPO活動基金から継続的な活動が期待できる事業に助成し、資金面と組織運営サポートにより市民活動団体の基盤強化を支援してきました。これまで、延べ95団体が助成を受け、里山保全、子育て、障がい者の自立支援等々多くの分野で活躍しています。

財団法人淡海文化振興財団は2011年4月に公益財団法人に移行しました。それに併せて、おうみNPO活動基金の理念を継承し、市民や企業など幅広い寄付者のニーズに沿った基金運営と活用ができる未来ファンドおうみを創設いたしました。未来ファンドおうみは、寄付者がお金の使い道を細かく指定でき、お金の込められた寄付者の想いが最後まで活かされる仕組みになっています。寄付という行為を通じて、社会課題の解決に対する意識を高め、市民活動への参画が広がるとともに、寄付を受ける側の社会意識の向上と活動の透明性を高めることを目指します。

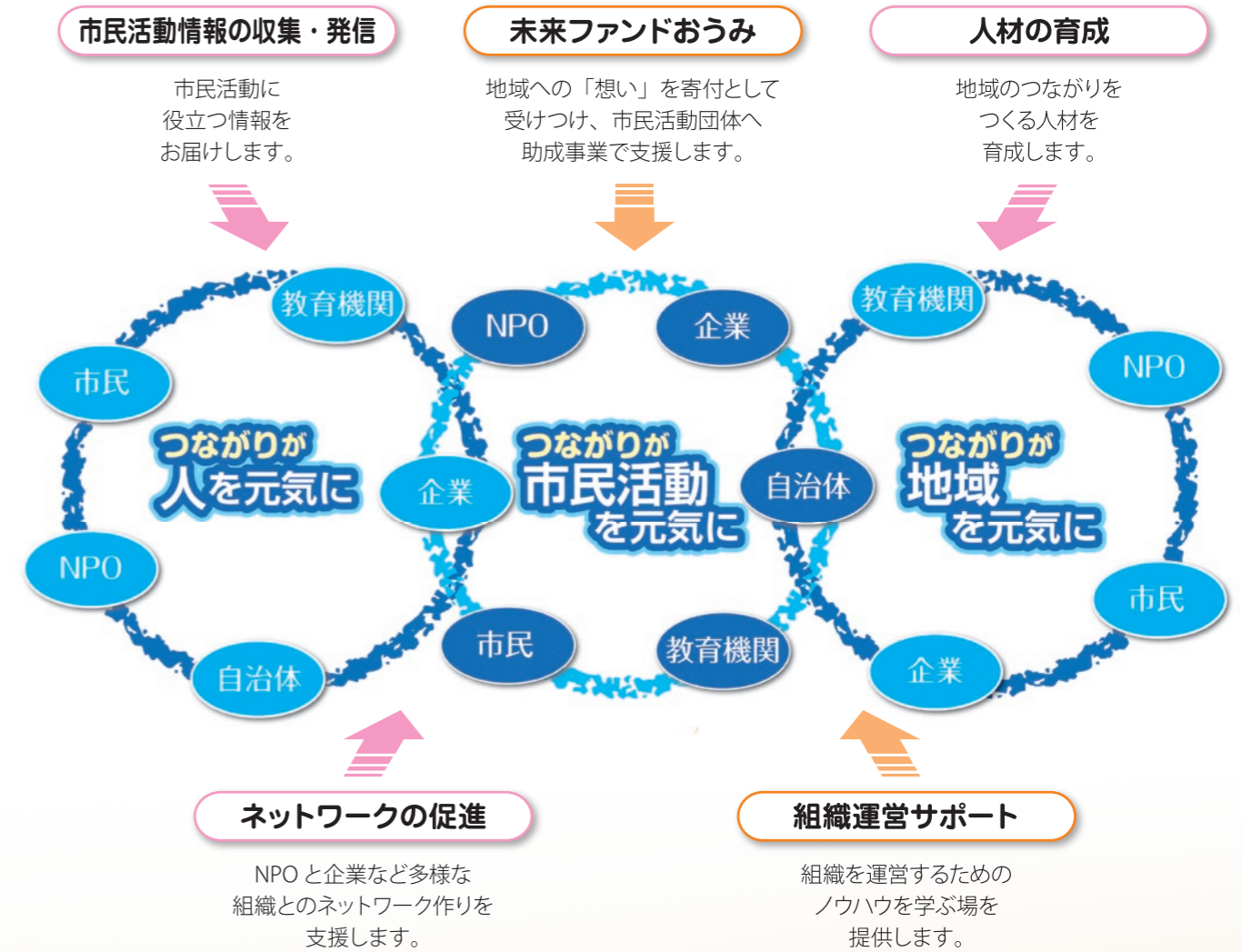
私達は、民が民を支える新しいお金の流れを創り、志あるお金を新しい公共への投資につなげる仕組みを、おうみの、おうみによる、未来のおうみのためのファンド、「未来ファンドおうみ」と名付け、「おたがいさまがつながり、生きる」未来への可能性に満ちた地域社会をおうみから創りたいと考えています。

淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）



淡海ネットワークセンターのご紹介

淡海ネットワークセンターは、地域の個性や魅力を高めたり、暮らしをよりよくするための活動、地域や社会の課題解決に自主的に取り組む NPO（民間非営利組織）・市民活動団体を支援しています。また、NPO、自治体、企業、教育機関など、さまざまな組織や団体とのネットワークを広げ、協働による地域づくりを進めていく活動をしています。

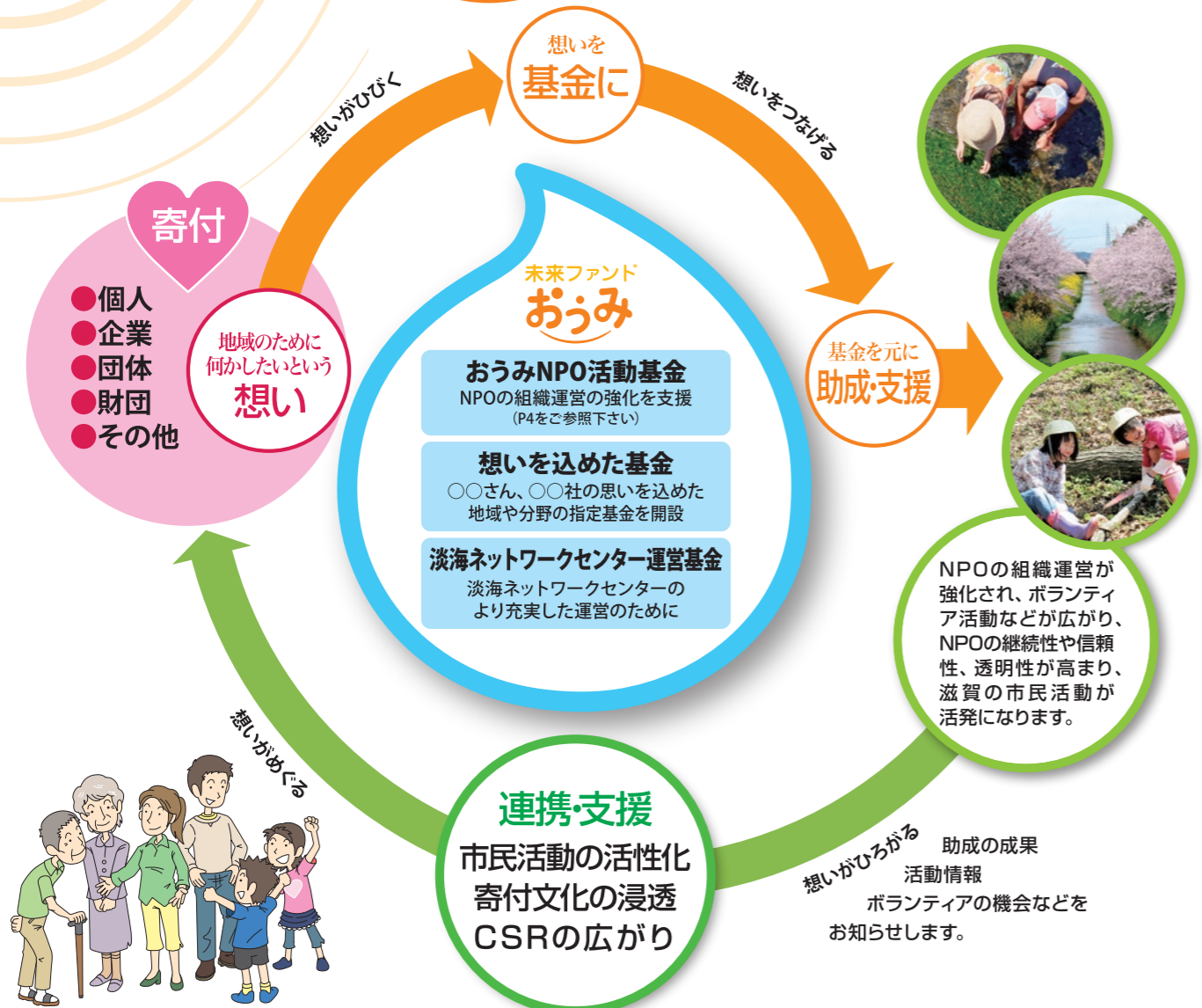


おたがいさまがつながり、生きる



未来ファンド

おうみのしくみ



未来ファンドおうみは、みなさまから地域への「想い」を寄付いただき、公益性、社会性、継続性の高い市民活動を実施する団体へ助成します。

寄付の種類は3種類の中から選択できます。

1. おうみNPO活動基金

市民活動団体が新しい活動を展開し、継続発展しながら活動を続けるための組織運営の強化を目的としています。

2. 想いを込めた基金

個人や企業の想いを込めた基金を寄付額30万円以上から設立できます。名前や会社名を冠した基金を設立したり、地域や分野を指定して市民活動団体へ助成したりすることができます。

想いを込めた基金第一号！びわこ市民活動応援基金

2010年、関西アーバン銀行（旧びわこ銀行）様と行員のみなさまからの寄付により、ボランティア活動の促進を目的に基金を開設しました。

想いを込めた基金 びわ湖の日基金

滋賀県の「びわ湖の日制定30周年」を記念に、びわ湖につながる山と流域の環境保全への想いを受け継ぎたいと分野を指定した提案型基金として開設しました。

3. 淡海ネットワークセンター運営基金

未来ファンドおうみを運営する淡海ネットワークセンターのより充実した運営のための基金です。

- 公益財団法人への寄付は税制上の優遇措置の対象となります。また寄付金額はいくらからでも受け付けます。
- 寄付先に指定のない場合は「おうみNPO活動基金」への寄付となります。
- 寄付金額の10～20%相当額は淡海ネットワークセンター運営基金へ充てます。
- 助成先は、審査委員による書類審査、公開プレゼンを経て決定されます。
- 助成先を訪問し、活動状況を把握し、寄付者へお知らせします。マネージメント講座や相談会を開き、助成先の活動をサポートします。
- 寄付、助成事業に関するご相談はお気軽に淡海ネットワークセンターへお問い合わせください。

おうみNPO活動基金 採択団体の紹介

2002年度に滋賀県と企業等の寄付により開設されたおうみNPO活動基金の助成事業採択団体から事例のご紹介

NPO法人あさがお

当法人は、権利擁護相談、法人後見、普及啓発等の事業を行う権利擁護支援を目的とした団体です。2006年から2008年までの3年間、「おうみNPO活動基金」の助成を受け、団体の基盤づくりが可能となりました。中でも、法人後見活動を支える地域支援員の養成を目的とした講座を3年間開催できたことは大きな収穫でした。現在7名の地域支援員によって、支援が必要な人々に対しきめの細かい訪問活動を行うことが可能となりました。



URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~n-asagao/>

助成実績: 第4回(2006年)、第5回(2007年)、第6回(2008年)

NPO法人 日吉台の福祉を語る会 あじさいくらぶ

お互いに支えあえるまちづくりを目指して、赤ちゃんから高齢者まで多世代で気軽に交流できる場「コミュニティカフェあじさい」をはじめ様々な交流プログラムを提供しています。活動基金の助成を受けて施設を整備しバリアフリー化したおかげで、特に閉じこもりがちな高齢者や車いす利用者が気兼ねなく継続して利用できるようになりカルチャー倶楽部の参加者も増加し、高齢者の社会参加を促し、介護予防になっています。



URL: <http://www.geocities.jp/ajisai72000/about.html>

助成実績: 第6回(2008年)

NPO法人 滋賀大キッズカレッジ&地域教育支援センター

当法人は、発達障害児に対する教育相談や学習支援など教育的支援、発達障害者の社会的啓発、共同研究および開発、普及活動を行う専門的NPOです。



年々、発達障害の教育的支援のニーズが高まり、現在の学習室だけでは対応できなくなってきました。おうみNPO活動基金を受け、近江八幡に学習室を開設することができ、より多くのニーズに応えることができるようになりました。それにより当法人の社会的認知が高まり、さらに活動が大きくなってきています。

URL: <http://www.nposkc.com/>

助成実績: 第6回(2008年)、第7回(2009年)

清水川湧遊会

(しゅうすがわゆうゆうかい)

清水川湧遊会では、地下水位の低下で水が湧かなくなった清水川に、TOTO水環境基金からの助成金で地下水を汲み上げる水中ポンプを設置し、その水を清水川へ導く施設をおうみNPO活動基金(まち普請事業助成)で整備させていただきました。次の年にもTOTO水環境基金と新設された東近江市まちづくり建設資材支給事業補助金をいただき、清水川の低水護岸を住民が汗を流して造り上げ、清水川に水の流れが戻り、昔のように市民の憩いの場として甦らせることができました。貴重な基金を活用させていただいたことで、清水川を環境を次の世代へ伝えていくことができると確信しています。



URL: <http://syuuzugawa.shiga-saku.net/>

助成実績: 第7回(2009年)

NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク

滋賀の地は琵琶湖を擁していることもあり、長年市民による多様な活動がされてきています。「菜の花プロジェクト」もその一つです。ただ、活動を継続・深化する中で常に「資金」にぶちあたります。



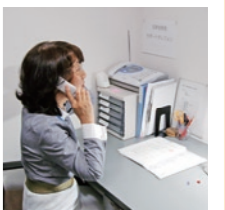
活動の質を落とさず、未来に向け、やりたプログラムは多数。こんな中で「おうみNPO活動基金」の助成は大変ありがたいものでした。ことに、全国に広がった「菜の花プロジェクト」を、足元滋賀のやや活動の見えにくい未来世代に受け継ぐ、そのための共感の場が必須でした。タイムリーな助成を頂いたお陰で、若いパワーが動き出しています。

URL: <http://www.nanohana.gr.jp/index.php>

助成実績: 第1回(2003年)、第5回(2007年)、第6回(2008年)

NPO法人 おうみ犯罪被害者支援センター

このような維持管理の助成をしていただける基金が他には無いため、センターとして非常に心強い支援を得たことに感謝申し上げます。公安委員会指定の要件を満たす事務所の家賃・共益管理費を滞ることなく支払い、活動拠点としてのセンター事務局を充実させ、安定した相談支援活動が実施できました。総相談件数も、平成20年は120件、平成21年は447件と4倍近くに増加しました。更に、面接相談室の確保により、従来受けられなかった面接相談が36件、交通費を確保出来たことで、直接支援数をのべ12件に増加させることができ、相談活動の更なる充実に繋がりました。



URL: <http://homepage3.nifty.com/ovsc/>

助成実績: 第2回(2004年) 第7回(2009年)

山門水源の森を 次の世代に引き継ぐ会

長浜市の「山門水源の森」(63.5ha)の生物多様性を保全するため、湿原の復元や里山の生物の再生作業を行いつつ、その重要性を広く市民に認識してもらえ活動が続いています。活動開始から10年を経て、活力ある森に再生できつつあるのは初期段階での「おうみNPO活動基金」を受けられたおかげです。



URL: <http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>

助成実績: 第3回(2005年)、第4回(2006年)、第5回(2007年)

NPO法人やまんばの会

やまんばの会は、米原市日光寺に拠点を置き、里山を保全しながら環境学習をサポートするNPO法人です。私達のミッションは、里山に新しい価値を見出しそれぞれがやりたいことを実現するという形で森を再生し、次の世代に伝えることです。おうみNPO活動基金の助成により、自ら考えたアイデアを実行する子ども会員「モッコクラブ」の活動が軌道にのりました。活動を次世代につなぐための課題解決に向けて新たな一歩を踏み出すことができました。



URL: <http://yamanbanokai.p1.bindsite.jp/>

助成実績: 第3回(2005年)

未来ファンドおうみへの

Support 応援メッセージ Message

敬称略、50音順



©2010 H.K.REYSOL

井原正巳（柏レイソルヘッドコーチ、サッカー元日本代表主将）

スポーツは、夢に向かって一生懸命に努力することの大切さを教えてください。特に子どもたちには、スポーツの楽しさに触れ、夢を持てる機会をたくさん作りたいと思っています。豊かな自然に恵まれ、空気がいい滋賀はスポーツをするには最適です。子どもたちの健全な育ちを支え、地域でスポーツに出会える環境が増えるといいですね。ふるさとの自然を守り、子どもたちの未来への夢を育てる「未来ファンドおうみ」を応援しています。



今森光彦（写真家）

琵琶湖をとりまく山々やすそ野にひろがる田んぼ。なんでもない風景だけれど、琵琶湖ならではの人々の暮らしをささえ、数多くの生き物たちを育んできました。自然と人が織りなす豊かさは、滋賀県だからみられること。そんな共存の美しさを、日本中に、いや、世界に向けて発信しようではありませんか。"未来ファンドおうみ"は、未来の風景をつくる夢のある道のりです。



大原謙一郎（財団法人大原美術館 理事長、倉敷商工会議所 会頭）

「地方」は国という大きな機械を動かす部品に過ぎないと思っている人がいます。これは間違っています。地方は、実は、「国をクリエイティブして来たもの」に他ならないのです。

ビジネス面でも、文化や学術や発明発見の面でも、今この国の風格と繁栄を支えているものは、ほとんど、地方から発したものです。「これからもそうあり続けるのだ」という事を、「未来ファンドおうみ」が滋賀の地で実証してくれることを期待したいと思います。



嘉田由紀子（滋賀県知事）

滋賀県では、今も人と自然のつながりを大切に、地域で人と人がお互いに支え合う活動が脈々と受け継がれています。このような「なつかしい公共」とも呼ぶべき活動が根づく中で、ボランティアやNPOなどの活動も活発になってきており、今後さらに「新しい公共」の広がりが期待されています。

今回創設された「未来ファンドおうみ」が、互いに支え合おうとする皆さんの思いをつなぎ、地域の活力を高め、満足度の高い社会へと「社会成長」を支えてくれる未来可能な活動を応援する大きな力になることを期待しています。



神山清子（陶芸家、滋賀骨髓献血の和を広げる会 代表）

人はお互いに支え合って生きています。骨髓バンクは、白血病など血液難病の患者にとって大きな希望です。誰かが患者となったとき、一人でも多くの方の登録が希望につながる、人と人の支え合いの仕組みです。今回、淡海文化振興財団が創設される市民が市民の活動を寄付で支える「未来ファンドおうみ」が、多くの人の希望を支える仕組みとして、大きく広がることを期待しています。



澤上篤人（さわかみ投信株式会社 代表取締役）

水と人と豊かな自然が素晴らしい調和を醸し出している滋賀県ですから、「未来ファンドおうみ」もやさしさ一杯のお金に支えられたいものです。

私も日本における本格的な長期投資のパイオニアとして、いろいろお手伝いさせていただけると存じます。大事なのは、「これは本物だよな」と感じてもらう、人もお金も自然と集まってくる流れをつくることです。



高田紘一（滋賀経済団体連合会 会長）

いま、21世紀に「生かされている」地球市民として、世界共通の課題があります。それは、20世紀の反省に立って、「平和と環境の世紀」にすることです。真の世界平和を実現する上で大事なキーワードは、「多様性の尊重」であります。民族や歴史・文化の個性をお互いが尊重し競い合うところに、「平和な社会」が生まれると確信します。また、地球温暖化を皆の努力で防止し、環境保全と経済発展の両立を目指すという「グリーン革命」に夢を託したいものであります。

淡海ネットワークセンターの活動がより一層多くの県民の皆さんからの支援を得て、ますます内容を充実されますよう、経済界を挙げて応援したいと考えます。



田原総一郎（ジャーナリスト、琵琶湖塾 塾長）

日本の借金は危機的になり、日本社会の閉塞感はますます強まっています。このような時代だからこそ、自ら地域を支えよう、課題に取り組もうという市民の活動は社会に元気を与え、地域を支える本当の力になります。近江商人の「三方よし」の精神が生きて滋賀から、おたがいがさまがつながり、支え合う地域社会の創造として「未来ファンドおうみ」の広がりに期待しています。



中村邦夫（パナソニック株式会社 会長）

琵琶湖、そして取り巻くたくさんの里山里川から、古来、私たちははかりしれない恵みを得て、暮らしを営み、豊かな生活文化をはぐくんできました。その貴重な財産をぜひ未来に引き継いでいくために、一滴の雨粒でも集まればやがて大きな湖となるように、私たち一人ひとりがつながりあい、助けあうことがとても大切だと思います。「未来ファンドおうみ」がそのきっかけづくりとなることを期待します。



西山実（生活協同組合コープしが 理事長）

くらしに関わる不安が大きくなる中、人と人が分断され、自己中心的になりがちな世の中であって、つながっていることの実感。協同する価値が今ほど大切な時はありません。

生活協同組合の本質である人と人がつながりを大切にする組織として、滋賀県下におけるおたがいがさまが地域を支えるつながりづくり「未来ファンドおうみ」に大いに期待します。



堀田力（日本ファンドレイジング協会 代表理事）

せめてもの償いを！

国は子どもたちの未来に大借金を背負わせ、私たちは先祖から受け継いだ、助け合うあたたかい近隣社会をぶっ壊してしまった。

せめてもの償いに、豊かな自然と人の絆を取り戻して引き継ぎたい。そのための労力と資金を惜しんでいては、天国へ行けないだろう。